

## 第4回 秋川高校跡地及び秋川高校跡地周辺地区のまちづくりに向けた有識者会議

日 時：令和6年2月26日（月） 15:00~17:00

場 所：あきる野市役所 本庁舎5階 505会議室

出席者：饗庭座長、朝日委員、遠藤委員、下村委員、古屋委員

---

<進行：饗庭座長>

■前回の振り返りと対応 《説明：事務局》

■まちづくりの方向性（案）について《説明：事務局》

【意見交換】

<まちの現況などについて>

（下村委員）

- ・近年の社会情勢やトレンドが具体的であり、書き方として中立的で狭いように感じる。まちづくりの方向性の3つの理念があきる野ならではの内容になっているため、ウォークアブルなまちづくりの推進や地域コミュニティの希薄化の前に地域文脈の話を入れ、住民と連携してまちづくりを推進することが伝わるようにした方が良い。そうすれば、まちづくりの方向性と結びつくと思う。
- ・文化的な特徴もあるため、もう少し歴史的な話を入れた方が良い。

（饗庭座長）

- ・緑のネットワークについてももう少し深掘りしてはどうか。

（朝日委員）

- ・コロナ後の生活様式の変化の話は、計画に明示的に時間軸が入るイメージがあるので、将来像とともにまちづくりの方向性として強調してはどうか。
- ・メタセコイアについてはグリーンのシンボルの話だけでなく、具体的な維持管理方法についても併記した方が良い。

（饗庭座長）

- ・メタセコイアの高さや眺望の配慮に向けて、産業施設の高さについてどこまで示す必要があるか。

（下村委員）

- ・メタセコイアをシンボリックに扱うのであれば、メタセコイアが隠れないように産業ゾーンの高さを調整するなど景観的配慮があった方が良い。メタセコイアがしっかりみえることが重要だと思う。

⇒（事務局）

- ・遠景、中景、近景という話が前回会議で出た中で、どのように高さの話を整理するか検討中である。具体的な高さは書けないが、メタセコイアの景観を配慮する旨は書きたいと考えている。

## <今後のまちづくりに対する課題について>

(朝日委員)

- ・産業機能の「地域経済循環の健全性を確保する革新的な手法」についてのイメージが掴めない。

⇒ (事務局)

- ・イノベーションという言葉日本語に直して記載している。あきる野市の地域経済循環率が周辺と比べて低いという現状があるので、それを産業機能で補うことをポテンシャルとし、交流機能のオープンイノベーションと同じような連携を想定して「革新的」という言葉を使っていた。

⇒ (朝日委員)

- ・革新的な手法というよりは働く人・消費する人を増やすというイメージか。

⇒ (事務局)

- ・そのような意味合いを想定していた。言い回しは今後検討してブラッシュアップする。

(朝日委員)

- ・外国人労働者の可能性は考えられないか。

⇒ (事務局)

- ・将来的に、福祉、農業では、外国人労働者の雇用が必要になると考えている。

(遠藤委員)

- ・産業機能の不足という課題があることは分かるが、全体を通して産業をどのように考えているのかやや分かりにくい。産業用地を確保するだけで良いという考えなのか、産業用地を確保した上で産業を誘致するために何かするのか明確にした方が良い。

- ・現時点では、まだ産業の話はイノベーションを起こすほどの提言の内容までたどり着いていないと思う。仮にイノベーションを起こすことではないのであれば、産業にとって魅力的なインフラなのかといったプラスアルファの話が必要。そこまでいかないのであれば、土地を確保すれば自然と産業が埋まるというストーリーで問題ないと思う。

- ・オープンイノベーションはクローズイノベーションの対義語であり、普段は閉じている大学や研究機関をオープンにし、イノベーションを起こしていく意味だと理解しているため、交流機能の創出としてオープンイノベーションという言葉を使うのは違和感がある。産業と合わせて「イノベーション」という言葉の整理を行った方が良い。

(古屋委員)

- ・(1) の地域経済循環の話は、地域経済循環率を上げる産業でないといけないと読み取れる。地域経済循環率が低いという課題を、この場だけで課題として提起して解決するのは難しいと思う。雇用の創出や企業の進出がメインであると思うので、ここはもう少し優しく書いた方が良い。

⇒ (饗庭座長)

- ・地域経済循環をどれくらい求めるのか考えた方が良い。

⇒ (事務局)

- ・今ある産業系土地利用の中で地域循環の課題が何かあるか今後確認する。

## <まちづくりの方向性について>

(下村委員)

- ・3つの理念があることは良いと思うが、理念に対する説明が近年の社会情勢やトレンドと同様に具体的にすぎるように感じる。例えば、サスティナブルの文中の自然の話はメタセコイアではなく秋川丘陵地などもう少し大きな立地としての自然の話にした方が良い。
- ・エリアマネジメントの拠点化をしていく動きがあるため、「行きたくなる」という言葉は良いと思う。
- ・全体的を通して話を具体化させるならば、広がりがあるような書き方にした方が良い。

(朝日委員)

- ・前の議論時と同様に、将来像の機能の中にある福祉と学の印象が薄いと感じた。
- ・「行きたくなる」という言い回しは「憩い」よりは良いと思うが、スケールが大きすぎるように感じる。そのため、「集まる」や「集う」という言い回しの方がイメージに合っていると思う。

(饗庭座長)

- ・「拠点の形成」というと施設をつくるイメージがあるため、相応しくないのではないかと。

⇒ (下村委員)

- ・地域経済循環という視点は、機能上の拠点になり得ると思う。集まった人や物を経済的な形に転換し、それをメタセコイアの管理に回すなど、これからの循環型のベースのイメージを持っていた方が良い。

⇒ (事務局)

- ・トーンを落とすなど、表現を工夫する。

(遠藤委員)

- ・全体的な構成は有機的に繋がっていた方が分かりやすい。
- ・土地利用として将来像をつくるのか、住民を巻き込みながらまちづくりを行っていくのかということが行ったり来たりして混在しているため、分かりにくいと感じた。将来像の考え方と土地利用構想図との関係性がもう少しみえた方が分かりやすい。
- ・3つの理念の位置付けの違いを明確にしながら構想をまとめた方が良い。3つの理念の方が土地利用構想に結び付けやすいため、3つの理念と土地利用構想を前提とし、それを踏まえたまちづくりへの提言とするのはどうか。(理念⇒土地利用構想⇒提言)
- ・将来像は遠い将来のまちの姿というよりも、土地利用構想を考える上での目標にすると分かりやすいと思う。

⇒ (下村委員)

- ・地域文脈を踏まえた将来像を考えた方が良い。

(饗庭座長)

- ・(1) 将来像と(2) まちづくりへの提言を逆にしてはどうか。

(朝日委員)

- ・産業は昨今オートメーション化しているため、誘致する業種と人の流れの予測が重要であると思う。

⇒ (饗庭座長)

- ・「働きたくなる」は企業目線か働く人目線か考えた方が良い。

⇒（古屋委員）

- ・「暮らしたくなる」で区域内居住者、「行きたくなる」で区域外居住者を指していると思うので、ここで言う「働きたくなる」は経営者目線で書いた方が良いと思う。

（古屋委員）

- ・今後この場所でどのようにまちづくりを進めていくのかという記述がなかったが、どのような進め方を想定しているのか。

⇒（事務局）

- ・ゾーニングを示してビジョンを策定し、その後で市の考えを整理する上でさらなる検討していく予定である。

（遠藤委員）

- ・サステイナブルのリード文に歴史・文化を紡ぐとあるが、それに関連する歴史・文化の話がどこにも書かれていない。キーワードは歴史・文化で良いのか。

⇒（事務局）

- ・市民意向等から地域文脈を整理し、ブラッシュアップする。西秋留村の歴史や旧秋川高校の歴史について記述できると良い。

⇒（下村委員）

- ・昔の農の風景の写真があると良い。

（遠藤委員）

- ・インクルーシブの問題意識は何か。インクルーシブという単語が出てきた経緯が読み取れない。

⇒（事務局）

- ・誰もがという意味だけではなく多様性的な意味合いで考えていた。

⇒（朝日委員）

- ・「働きたくなる」と「インクルーシブ」を結び付けた方が良い。

## <土地利用構想について>

(饗庭座長)

- ・日の出福祉園は隣町とは言え、これらの土地利用構想図だと関係なく見える。
- ・この場を特徴づけるなら、あきる野学園や日の出福祉園との連携が大事である。
- ・入る工場の種類や規模がみえてきたらイメージ図をつくった方が良い。

(事務局)

- ・最終的には、土地利用構想のイメージをどのような考え方で整理したのかが分かるように整理する。

## ■その他【連絡事項等】

- ・本日の意見等を受けて、座長一任で最終的な取りまとめとしたい。(委員了承)
- ・第5回有識者会議は3月19日(月)10時半より開催する。

(以上)

